若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE

若者を考える、若者と考える

vol.27

YOUTH SERVICE vol.27 2017年4月1日発行

特集

若者×地域ボランティア

TOPICS えらべる まなべる Ring the bell

Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある！

――普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる4つの登校スタイル Schooling×Style

クラス制	たくさんの友達と接しながら学ぶ。
フレックス制	自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
土曜日選択制	指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
夏冬集中受講制	夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。

※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

＋

選べる18の専門コース Special×Course

- 進学
- ダンス
- 調理・製菓
- 美容
- 声優
- ミュージック
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 動物
- 芸術
- スポーツ
- 芸能
- 外国語
- ファッション
- 心理・教育
- 保育
- NEW エンジニアコース 平成29年開講
- NEW コミック・アニメーション

※希望者のみ選択できます。※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。

NEW 平成29年4月第二新校舎完成

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部／料理部／写真部／ASG部／演劇部／茶道部／吹奏楽部／軽音部／声劇部／手芸部／健康増進部／Duel Masters部／天文部／テニス部／卓球部／バスケットボール部／フットサル部／総合運動部／その他生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

不登校相談支援センター なごみ教室

学校生活や人間関係等で不安感や緊張感が高まり不登校に悩む保護者や生徒を対象に、いきいきとした生活を送ることができるように、総勢９名のカウンセラーが支援します。

平成２７年４月京都府認可

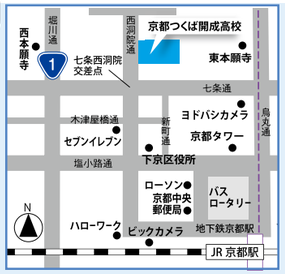
私たちは青少年育成を応援しています！

通信制・単位制・普通科

京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 http://tkaisei-kyoto.jp/ 京都つくば 検索

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番
TEL：075-371-0020 FAX：075-371-0021
◆JR・近鉄・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分



3 特集 若者×地域ボランティア

8 高校生が作ったページ LGBTについて考える

10 あらためてユースワークとは ～理念から考える～ 水野篤夫

12 TOPICS えらべる 学べる（まなべる） Ring the bell ―若者限定地域通貨『べる』の挑戦―

14 ユースかわら版 「ワカモノ文化市」「寄付の教室」 ほか

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

ぷち・メッセージ

子ども若者支援に関わって思うこと

神戸松蔭女子学院大学
京都市ユースサービス協会
子ども・若者支援室 スーパーバイザー
坂本 真佐哉

子どもや若者の問題では、時に家族との間でビミョーな空気になってくる。なぜかというと、本人たちは「そっとしておいてほしい」のだが、周囲はそれを「やる気のなさ」と捉えて放っておけない。そんなこんなでトラブルになってしまい、疲れ果てる。ホントはみんな前向きに歩みだしたいのに、それが作用と反作用の関係になってしまう。家族も子どもや若者の支援者から「見守りましょう」などと言われても、たとえ頭ではわかっていても受け入れることができない。「見守る」は「何もしない」の同義語に思えるから。

しかし、学校や社会が最終ゴールではないし、実はそこまでにだっていくつもの小さなゴールがあるはずである。好きなことが再開できる、少し前のように家族と楽しく過ごせる、また笑顔を見せる、日常のあいさつが再び交わせるなども小さいながらも大切なゴールだ。各停の駅を通過しないと快速の駅には到着しない。小さな元気を見つけ育むことが次の希望につながる。

みなさんの、そして目の前の人にとっての“小さな元気”はいったい何だろう。わからなければ子どもや若者本人に教えてもらおう。

イラスト：おおつか　なな

プラス思考に変える独自の教育「EMS」で
自分を好きになる、未来が変わる!
中3、転・編入のご相談を随時受け付けております。お気軽にお電話ください。

自分に合ったスクールライフ
通学型 ●毎日通って高校生活を満喫 ●週1～3日マイペースに登校
通信型 - Mobile HighSchool - ●時間や場所を選ばず学ぶ

ICT教育の推進
iPad®miniを生徒全員に配布
学習意欲の向上　学力の定着
iPadは米Apple Incの登録商標です。

仲間ができる!笑顔が増える!

心強い仲間たち（ピアサポーター）

様々なサークル・イベント

自分に合った学習
●中学校の復習から大学受験対策まで
●進路対策も万全（進学・就職）
●「セルフケア講座」で社会に出て役立つストレス対策

生徒第一…だから
第一学院高等学校
通信制高校（広域通信・単位制）
高卒認定合格を目指すコース（通学・通信）もあります。
京都市営地下鉄「五条」駅①番出口徒歩2分（京都駅より1駅）
〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F
京都キャンパス TEL 075-371-3007
全国52キャンパス（平成28年7月時点）
www.daiichigakuin.ed.jp 第一学院高校 検索

Youth Service ユースサービス

若者×地域ボランティア 活動の意義と課題

北青少年活動センター

大谷大学文学部社会学科 赤澤 清孝 准教授

ボランティアにはいろいろなタイプがあります。今回の特集は〝地域で活動するボランティア〟。研究者、ボランティア、ボランティアコーディネーターという三つの立場から、地域でボランティアする面白さ、苦心、工夫等を感じてください！

■若者にとってボランティア活動とは？

若者はなぜボランティア活動をするのでしょう。参加の動機は、「困っている人を助けたい」という「利他的な動機」と、「新しい体験をしたい」「仲間が欲しい」といった「利己的な動機」の大きく2つに分けられますが、若者の場合、活動を始める段階では、利己的な動機がやや強いようです。若者特有の「自分探し」ニーズの受け皿になっているとも言えるでしょう。しかし活動を続けるうちに、利他的な動機が強くなっていきます。

「自分のため」に活動を始めた学生たちの多くは、困難な状況の中で生活する人たちや、深刻な環境問題などと出会うなかで、「なぜ、こんな状況なのか」、「どうすれば改善できるのか」という問いに出会います。そして、「地域のため」「社会のため」に自分に何ができるのか考え、行動するよう変化していくのです。

経験や力量不足で、活動の現場で役に立てず悔しい思いをすることもありますが、そうした経験が、若者たちに、よりよい活動を行うために必要な資質や能力は何かという気づきを与えてくれます。若者たちの「自分探し」はやがて「社会の中での自分探し」へと変わるのです。若者にとってのボランティア活動の意義はこうした学びや成長にあると言えるでしょう。

■地域活動へ、若者を巻き込むには？

もちろんすべての学生が上記のような成長に至るわけではありません。成否を分けるのは、若者を受け入れる地域の側の意識や受入体制です。若者の参加が少なかったり、続かない活動の多くは、受け入れ側が若者を単なる人手・労力としかみなしてなかったり、参加することが若者にとってどういう意味や成果があるのかを考えていなかったりするようです。

現在の若者は、かつてと比べ、授業への出席が必須だったり、アルバイトやインターンシップ、就職活動に時間を割いたりと、やらないといけないことが結構多く、生活に余裕がありません。これは若者を取り巻く課題ですが、であるがゆえに「活動に参加するのは自分にとって意味のある機会だ」とわかるような見せ方や、活動中や活動後に「お役に立てた」「意味のある時間だった」と感じられるようなフィードバックが不可欠です。

関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会が昨年発行した「学生と地域のホンネ～大学のコーディネーション力を生かす～」には、地域と学生との間にあるギャップやその改善のためのヒントが数多く紹介されてます。ウェブサイトから入手できるのでぜひ参照してみてください。

（URL http://www.osakavol.org/03/daigaku-vc/）

若者×地域ボランティア

祇園祭ごみゼロ大作戦に関わってみて

東山いきいき市民活動センター 大野 丈

みなさんは、「祇園祭ごみゼロ大作戦」というプロジェクトをご存知ですか？

「祇園祭ごみゼロ大作戦」とは、祇園祭の宵山において屋台等で利用される使い捨て食器を何度も洗って繰り返し使用できるリユース食器に置き換えて、お祭りのごみ減量を目指す日本最大級の環境保全活動のことです。2014年からスタートし、毎年、約2、000人のボランティアスタッフがリユース食器の回収、ごみの分別ナビゲーションや、拾い歩き等の活動に参加し、ごみ減量に大きな効果を上げています。

■参加の動機

私自身、スタートの2014年から3年連続でボランティアスタッフとして関わっています。参加しようと思った理由は2点あります。1点目は、〝生まれ育った京都に何か恩返しをしたい〟という想いを形にするためです。2014年から「まちづくり活動」に関わることになり、京都という街がいかに魅力溢れる街かということを改めて実感し、自身も何か京都に貢献していきたいと考えていたときに「祇園祭ごみゼロ大作戦」のことを知って、とてもおもしろそうだと感じ、参加しました。

2点目は、〝尊敬できる人〟と出会うためです。私自身、人生において人との出会いを大切にしており、ボランティア活動に参加する方は、他者や社会に貢献することに喜びを感じる人で、自分に足りないものを気付かせてくれる出会いに恵まれること間違いないという想いで参加しました。実際に参加してみて、微力な自分が京都に貢献できたかはわかりませんが、道行く方々や露店商の方々からたくさんの「ありがとう」や「ご苦労様」といった労いの言葉を頂くことができて、大きなやりがいを感じました。日常生活において、直接には接点のない地域の方々から労いの言葉を頂戴するという機会はまずないので、非常に嬉しかったです。人間というのは誰かの役に立つことにこそ、大きな喜びを得ることができるということを実際に肌で感じることができて、本当に良かったです。人生をより豊かなものにしていく気づきを得ることができました。

そして、たくさんの〝尊敬できる人〟との出会いにも恵まれました。〝ごみの不法廃棄に悩まされている地域のクリーン活動に精力的に取り組んでいる方〟や、〝日本の森を守るために取り組んでいる方〟、〝教師になって日本の教育を変える〟と高い志を抱いている学生など、心の底から尊敬できる人に数多く出会うことができました。活動を通じて仲良くなったメンバーとは、フットサルをしたり、環境について考えるイベントをしたり、と活動終了後にも継続的に接点をもつことができて、人生において大きな財産になっています。私にとって、「祇園祭ごみゼロ大作戦」は、単なる環境保全活動ではなく、より自分を豊かにするための〝学校〟のような存在です。

■活動で感じる困難

一方、課題だと感じたのは、活動に対して〝積極的〟ではないボランティアスタッフの方とのコミュニケーションです。基本的には、活動に共感し、意欲的に取り組んでいる方々ばかりが参加されているのですが、なかには仕事の一環として、または学校の課外活動の一環として、義務的に参加されている方が一部いらっしゃり、その方々と同じベクトルで活動するのが非常に難しいと感じました。実際にお願いしたタスクを遂行していただけなかったり、シフトを守っていただけなかったりということもあり、そのような場合の対処法にとても困りました。ただし、約2、000人もの力を必要とする「祇園祭ごみゼロ大作戦」を実行するにあたって、〝積極的〟でない方々の力も欠かすことができないと思うので、今年度参加する際には、そのような方々に「どのようなお声掛けをすれば楽しんで活動していただけるのか」「活動することによってどのような価値を持ち帰っていただくことができるのか」意識しながら取り組み、より大きな成果に繋がるよう貢献したいと考えております。

ユネスコ無形文化遺産で、日本三大祭りのひとつである祇園祭に関わることができる「祇園祭ごみゼロ大作戦」。ぜひみなさんも〝お客様〟としてではなく、〝作り手〟として祇園祭を盛り上げませんか？必ず京都をより一層好きになり、自身を成長させてくれる出会いに恵まれること間違いありません。みなさんと一緒に活動できること楽しみにしております。

若者×地域ボランティア

左京×学生 縁ねっとの活動から

特定非営利活動法人ユースビジョン 芝原 浩美

地域活性化プロジェクト「左京×学生　縁ねっと」（以下「縁ねっと」）とは、２０１２年度から開始した、学生ボランティアを求める地域団体と地域で活動したい学生をマッチングするシステムで、左京区役所、左京区社会福祉協議会、当団体の３者協働で実施しています。

「縁ねっと」で紹介するボランティア活動は左京区内の地域団体等から情報が寄せられ、「縁ねっと」事務局から学生に情報発信を行い、学生が個別に申し込んで活動に参加するという仕組みです。なお、「縁ねっと」で取り扱う活動は、原則として、自治会や町内会、伝統文化保存会等の地域団体が行う活動に限定しています。今年度は、事務局がコーディネートに入る等重点的に関わる「イチオシ！活動プログラム」を新たに設けました。

これまでの５年間でのべ90件の活動、４５０人以上の学生が地域のボランティア活動に参加してきました。ここでは２つの活動を紹介します。

■葵ふれあいひろば

京都府立大学や京都ノートルダム女子大学がある「葵学区」の社会福祉協議会では、年に一度、学区内の葵小学校体育館にて、地域のお祭り「葵ふれあいひろば」を開催しています。太鼓、コーラス、太極拳等の住民の方々の発表会や、子どもコーナー（プラバンづくり、腕相撲等）、障害のある方の作業所の販売コーナー等、葵学区で活動するさまざまな団体や住民が集結するイベントです。

２０１５年は、「ふれあいひろば」の実行委員会に２人の学生が企画メンバーとして参加し、当日にはさらに数名の学生がイベント当日の運営をサポートしました。後日には、地域住民のみなさんの打ち上げ会にもお招きいただき、さらに交流を深めました。

実行委員会から参加した学生は「企画から参加できることが魅力だった」、当日参加の学生からは「多くの方が年に一度のこのイベントを楽しみしていることがわかった」「テントを建てたり、机やイスを運んだりするのは、体力がある学生が担当できてよかった」等の声を聞くことができました。

■左京区北部雪かき

左京区の北部地域（広河原、別所、花脊）は、冬には雪が多く降り積もる地域です。一人暮らしの高齢者宅ではなかなか雪かきができず家の１階部分が雪で埋まることもあり、２００６年度から左京区社会福祉協議会が実施していた雪かき活動に、２０１４年度以降「縁ねっと」でボランティア募集をしています（社会人も参加可能）。

今年度は３地域で合計37人の学生（留学生含む）が参加し、３日間（各地域１日）で12軒の家の周辺の雪かきを行いました。参加した学生からは「高齢者がこの作業を毎日していることを想像すると、やはり大変だ」「こんな地域が左京区にあることを初めて知った。また来年も来て手伝いたい」等の声がありました。

これまで、地域と学生をつなぐ一つの方法として取り組んできましたがその中で、「地域と一緒に何かしたい」「地域とつながりたい」あるいは「やってみたものの上手くいかない」といった声を聞くことがありました。

そこで「縁ねっと」の取り組みや当団体で関わってきた他の取り組みをふりかえりつつ、地域とつながる活動とするための課題や工夫、ポイントについてまとめてみたいと思います。

（1）地域側の事情・ペースを尊重する

何か新しく行う場合、受け入れる地域の側にとっては相当の覚悟と準備が必要となります。時期やスケジュール等、無理をさせないよう、地域側の事情をまず尊重し、少しでも地域側が不安に感じるようなら、時期を延期したり、活動内容を見直す等の判断を柔軟に行うことが大事です。

よく見られるのは「地域とつながって○○したい」という側の思いが強すぎるケースです。

（2）地域のキーパーソンとの信頼関係を構築する

地域側の窓口となっていただける方の存在は重要です。地域の行事に顔を出す等、キーパーソンとの関係づくりを前々から丁寧に進めるとその後も比較的スムーズなことが多いようです。

ただ、ここで気をつけたいのは、キーパーソンの思いが地域住民のみなさんの総意とは限らないということです。何をするにも最終決定するのは、地域の方々です。短時間で結論が出ないこともあるかもしれませんが、じっくりと待つことが大切です。

（3）学生への期待（過大または過小）を調整する

地域住民のみなさんはそれぞれ「学生」というイメージを多種多様にお持ちです。例えば、「学生は時間に余裕がある」「パソコン作業が誰でも得意」という期待や、「挨拶も十分にできない、手間ひまがかかる存在」とややマイナスなイメージ等です。

できるだけ、現在の学生の姿をお伝えする、最初は少人数で参加して実際に学生とふれあう機会等の工夫が考えられます。

「縁ねっと」では、地域と学生のよりよい出会い、よりよいつながりが生まれるよう、これからも地域の方に教えていただきながら、様々な取り組みを展開していきたいと考えています。

＼ボランティア募集中／

学生のみなさん、「左京×学生 縁ねっと」では、左京区の各地域で行われるボランティアに参加しませんか？　詳しくは「左京×学生　縁ねっと」で検索してください！　QRコードで募集中のボランティア情報をチェックできます！

ボランティア特集号発行しました！

京都市内の若者が活動できるボランティア活動を集めたリーフレットです。

この春から活動を始めたい方、ぜひお手にとってください。

各青少年活動センターでの配架のほかに、市内の学校、図書館等にもお送りしています。

高校生が作ったページ

高校生がLGBTについて考える

私たちが編集しました！

【右】小嶋あかり（16）
【左】的場美帆（16）

昨今よく耳にするようになった「LGBT」言葉は聞くけれど、学校で教えられるものでもなく、実際にわからない部分もたくさんあります。今回はLGBT当事者またはセクシュアルヘルスに関する活動をしている大学生5人と座談会を行い、お話を伺いました。そこで私たち2人が感じ考えたことをこんなふうにまとめてみました。

LGBTとは

- **L** Lesbian　女性同士の同性愛者
- **G** Gay　男性同士の同性愛者
- **B** Bisexual　同性愛の性質をもつ人。異性・同性問わず愛することができる人。
- **T** Transgender　心と体の性が一致しない人。法律や社会的に割り当てられた性別にとらわれない性のあり方をもつ人。

▼高校生2人がLGBTに興味を持ったきっかけについて

あかり：私は性にゆらぎを感じたことはないんですが、ある雑誌でLGBTについて特集されていて、レズビアンのカップルの方がディズニーランドで結婚式を挙げているというのを見て、そういうふうに男女関係なく、好きな人と好きな場所で式を挙げるってすごい素敵なことだなと思って、LGBTに興味を持つようになりました。

ひな：最近では、そういうふうに特集されることもあるんですね。

翔：結婚情報誌とかにも特集されてたりするよね。

みほ：私は幼稚園の頃の忘れられないことがあって。餅つき大会をするっていうときに、杵を男の子は1人で、女の子は先生といっしょに持ち上げてつくってというのがあって、安全面もあったんだろうけど、そこでなんで差別するんだろうって思ったことはありません。

ひな：幼稚園って、最初に枠組みされる場だと思う。遊びも、女の子はままごと、男の子は泥遊び、みたいな。私は泥遊びとチャンバラ派だったけど、やっぱりそういうところで「女の子らしくしなさい」「男の子らしくしなさい」って言われ続けたら、違和感を持っていてもなかなか言い出せないってこともあるかもしれないよね。

しょうへい：僕は、世間が「〜らしさ」にこだわりすぎてるんじゃないかなと思うことがよくあるな。子どもって良くも悪くも正直だし、そういう時に、「女の子らしさ」「男の子らしさ」を強制する、そういうところを変えていくべきなんじゃないかな。

るーじゅ：私も、「らしさ」を押し付けられるって嫌やなって思う。

しょうへい：うんうん。「らしさ」って何？　って聞きたくなるよね。そういうのを学校で考える機会ができれば良いよね。

▼ここで少数派に関する話に

ひな：いま、少数派を守るということに固執しすぎて、大多数を排除するというようなことも起こってきてるように感じるな。LGBTってありえへんって思う人もいるし、その考えを変えさせるためにネットで叩いたり、攻撃するっていうのは、なんかちょっと……違和感。少数派は認めてほしいっていう思いもあるけど、それ以前に理解してほしい。

しょうへい：普通で良いよね。

るーじゅ：少数派を守ることを生きがいに感じてる人もいるよね。本当に当事者のことを考えているのかな？　みたいな。前にある市長の発言がツイッターにあがっていたことがあったけど……

しょうへい：あそこまでバッシングしなくても……って感じだったよね。

るーじゅ：そういうことを書いたサイトの、見出しに悪意を感じることもある！

エリック：世の中のLGBTに対する見解で、私が不満に思っていることは、セクシュアルマイノリティとセクシュアルマジョリティという分け方。これは普通じゃないとか、これは○○らしくないとか、性別二元論とかが、少数派という存在を生んでると思う。そこに違和感を感じるかな。

ひな：私たちは、特別視をしてほしいんじゃなくて、マイノリティもマジョリティもあっていい。認めてもらうよりも、理解をしてもらいたいな。

▼座談会終了。感想を1人ずつ述べることに

エリック：今日は普段話す機会がない高校生ということで緊張していたけど、気持ちの整理をしながら、話したり、聞いたりできて良かったなと思います。高校生の2人には、一人ひとりが性をもつ「みんなが当事者」という考えをもっていてほしいな。

しょうへい：今日、一番楽しみにしていたのは、他大学の人の意見や高校生の意見を聞けること。いろいろ刺激を受けました。理解できるかどうかではなくて、考えることって大事だなと改めて感じました。

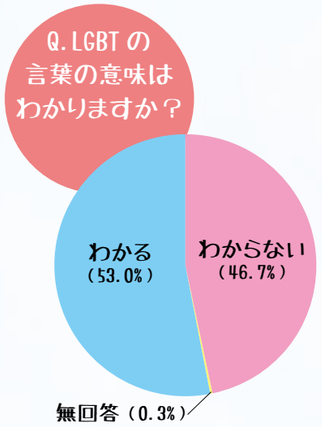
ひな：私は、高校生がLGBTに興味を持ってくれたことが嬉しかったです。フレッシュな意見も聞けて、本当に良かった。あまり深刻に捉えすぎなくてもいいけど、カミングアウトができず、差別を受けている人がいることも忘れないでほしいな。

るーじゅ：私はLGBTの当事者ではないので、話していていいのかなぁと思っていたけど、いろいろなことを話せて、聞けて良かった。今日、話し合ったことは、LGBTの問題だけじゃなくて、いろんな問題についても言えるんじゃないかな。

翔：今日は高校生の話を聞こうと思って、高校生っぽい服装をしてきました（笑）。紙面を読んでいる方で、当事者の方がいたら、あなたの居場所はあるんだよ、あなたの周りにはあなたのことを理解してくれる人が必ずいるんだよ、ということを伝えたいな。

高校生が質問！　座談会

ここでの意見は、出席者個人の考えに基づく発言です。協会では、若者が性の多様性について考えられる場づくりにも取り組んでいます。



※出典『LGBT等性的マイノリティに関する 意識調査』公益財団法人京都市男女共同参画推進協会

過半数の人がLGBTの意味がわかると回答しました。最近では、新聞やメディアで取り上げられることから、このような結果がでたのではないかと考えられます。しかし、それと同時に半数近くの人がLGBTの意味を知らないと回答しています。学校などで、LGBTを学ぶ機会があればもっと多くの方にLGBTを知ってもらえるのではないかと感じました。

まとめ

今回の座談会で、本やメディアだけでは知れなかった、当事者の方のリアルを聞くことができました。私たちは、座談会を行うまで、当事者の方はもっと世間の認知を望んでいると思っていたので、座談会中の「認めてもらうよりも理解してほしい」という言葉には驚きました。今後、当事者の方の気持ちを理解することやきちんとした認知が広まることが必要だと感じ、そのためにはLGBTについて取り上げられたり、考えたりする機会を多くつくるべきだと感じました。

あらためてユースワークとは
～理念から考える～

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長　水野篤夫

京都のユースサービス（※1）は、1970年代から、イギリスでの実践や理念と政策を参考にしながら取り組まれてきました。そこには、従来の日本の青少年施策や活動には見られない新鮮な考え方があったからですが、そのエッセンスは今でも色あせない魅力を持っています。ここで、あらためてそれを取り上げて考えてみたいと思います。

ユースワークの要点

イギリスのユースワークの理念について取りまとめを行っている機関であるNYA（National Youth Agency）のペーパー（※2）では、次のように要約されています。

1. ユースワークは、若者が楽しさ・挑戦と結びつけられた学びと実践を通して、自分自身や他者および社会について学んでいくことを手助けする。それは、発展的なプロセスであり、若者自身が参加してみようと考える時と場において進められるものである①。また、若者とユースワーカーの信頼関係こそがユースワークのプロセスにとって中核的なものである。
2. ユースワークはユースセンターや学校、カレッジ、公園、街頭、ショッピングモールなど若者が集まるあらゆる場において行われる②。そこでの手法は個別的なサポートとともに、グループを通したサポート、経験を通した学びを促す方法を含むものである。
3. ユースワークは、若者が自らのアイデンティティを探索し、自己決定の経験を持ち③、自信を深め、対人関係のスキルを開発するとともに、自らの行動の結果を通して考えていくことができるための、安全な空間を提供する④。
4. ユースワークは政府による〝若者ビジョン〟における、「若者は幸福で健康かつ安全な10代を過ごし、大人になるための十分な準備と、若者の持っている力をフルに開花させることができるようになる⑤必要がある」との観点に寄与するものである。2007年1月から、地方自治体は、ユースワークも含めて、自治体のエリア内の若者に対する「積極的取り組み」を求められているが、それらの取り組みは、若者自身が望んだものであること、若者を〝成功への道筋〟に乗せる助けとなるものであることが求められている。

（筆者による要約。傍線・番号も筆者による）

若者のいる場でのワーク

どうでしょう？　やさしい言葉で書かれていますが、実践現場にいる身からすると、結構厳しい目的が挙げられていると感じます。①で「若者自身が参加しようとする時と場で進められる」と書かれているのですが（傍線）、施設にいて待っているだけだったり、支援する側の都合で関わろうとする態度を否定する表現になっています。だから、②にあるように若者が「居る」場所でワークが行われる必要があるという訳です。また、若者主体という極めて現代的な考え方も押さえられていて、若者の自発性や感覚（大事にしていること、関心のあること）を尊重しながら関わるというユースワークの特徴が表されている部分でもあります。

経験を通した学びと空間づくり

③に書かれていることも、さりげない表現ですが重要な点です。自己決定の経験を持つことの重要性を指摘しているのですが、そこにとどまらず④「自らの行動の結果を通して考えていくことが出来る」ようになることまでが見通されています。イギリスのユースワークは教育を基盤とした考え方といえるのですが、あらかじめ設計されたカリキュラムに沿って学ぶ、その方向に導くといった考え方をしていないことが、ここで表されています。ユースワークは体験を通して学ぶことを重視しています。さまざまなプログラム活動を仕掛けて、そこでの体験を通して学びにつなげていくのです。そして、その際に「安全な空間を提供する」という言葉が重要な意味を持ちます。

日本の一般的な健全育成の活動では、元々健全な子どもだけが参加しやすいという問題が内包されています。安定しない家庭、教育に熱心でない親の元で育つ子どもや若者はそもそも参加しにくい、という問題です。また、学校ではどうなのでしょう？　自分でやってみての気づきから学ぶことは保障されているのか、教師が学ぶべき内容を決めていないか。そもそも、いじめやスクールカースト（※3）が存在する教室であったら安心して〝結果から学ぶ〟ことができるのか、考えさせられるところです。経験の機会をすべての子どもや若者が得られるようにし、学びのための「安全な空間を作る」ということに、ユースワークの大きな役割と責任が感じられるのです。

幸福で健康で安全な10代を

⑤で書かれている目標観も共感できるものです。問題を若者のせいにすることなく、本来持っている力を開花させることが、社会の責任であることを述べているからです（とはいえ、ここでは政府の政策にも「配慮しているよ」といったポーズが見えなくもないですが）。「幸福で健康な10代を過ごす」ことができるような政策と活動、これも、簡単な言葉ではありますが、とても重い提示です。ともすれば子どもや子育てには力が注がれるが、ティーンエイジャーには学び・育つための〝安全な空間〟が確保されにくい日本の現実を考えると、イギリスで言われている言葉ではありますが、きちんと受け止める必要のある考え方ではないかと思うのです。

※1　ユースワークは主に方法を語る時に使われ、ユースサービスは政策や活動を説明する時に使われるが、イギリスでも両者は入り交じって使われるので、ここでは区別しないで用いる。

※2　『The NYA Guide to Youth Work in England』（2007）

※3　スクールカーストとは、学校空間において生徒の間に自然発生する人気の度合いを表す序列を、カースト制度のような身分制度になぞらえた表現。

Topics

えらべる　まなべる　Ring the bell（訳：うまくいく）

―若者限定地域通貨『べる』の挑戦―

京都市山科青少年活動センター　ユースワーカー　横関つかさ

子どもから大人へと、少しずつ成長していくその過程の中で、自分が暮らしている地域資源（大人、お店、地域行事など）が支えとなっていたと実感を持てる人は、どのくらいいるのでしょうか。幼稚園や小学生の頃とは異なり、中学生以降になると、時間の使い方や行動範囲の広がり、また、思春期に入ることで地域とのつながりは疎遠になっていきます。

しかし、こういった世代の若者たちのことを気に掛けている地域の大人たちも少なからずいます。両者がうまく出会い、地域の中で若者たちが育っていくことを実感できる仕組みを作りたい、そんな想いから生まれた取組みが、地域通貨「べる」です。

地域通貨「べる」は、山科区の中高生年代の若者が地域イベントや事務作業など、地域の中で誰かのためになる活動をするともらうことができ、地域の中でお金の代わりに使うことができる仕組みです。大阪府箕面市の地域通貨の取り組みを参考にして平成27年8月に始まりました。

べるのしくみと目的

地域通貨「べる」は、京都市山科青少年活動センターが、１べる＝１円の価値がある地域通貨として平成 27 年 8 月より発行しています。中高生年代の青少年が様々な活動を「えらべる」、そして活動を通して社会を「まなべる」、さらに、得た通貨で「たべる」「あそべる」のが地域通貨「べる」です。

※地域通貨「べる」の運営資金は山科青少年活動センター運営協力会よりご寄付いただいております。

べるの目的

1.　青少年の働く意識の向上を

青少年が多様な職業観や就労意識を身に付け、自分の将来を考えるきっかけを作ります。

2.　地域のなかで青少年に役割を

青少年は対価をもらう責任と喜びを学び、自らの自己有用感を高めます。

3.　地域で青少年を支える土壌を

青少年の成長を支える仕組みを、自らの住む地域の中で作り、将来の地域の担い手を育む下地をつくります。

「べる」の活動の概要

区民まつりでの工作ブースにて。大人の方から道具の扱い方なども丁寧に教えて頂きました。

平成 28 年度　データ

◇登録者数　32 名

◆延べ活動数　42 件

◇発行されたべる　14,300 べる

◆協力団体　５団体

おもちゃの体験教室にて。小学生以下には難易度の高い作品を中高生が手掛け、プログラムのフィナーレを盛り上げました。

活動前に説明を受け、「べる」の活動が遊びではなく、責任が伴うことだと理解した上で登録手続きをします。

終了後には報告書を提出します。受け入れ担当者からのフィードバックももらいます。

活動の条件などが書かれた求人票が貼ってある「べるハローワーク」から自分が取り組みたい活動を探します。

▼地域通貨をツールにする理由

社会経験が乏しく、「誰かのために」という感覚が持てなかったり、「自分は何かの役に立つことはない」という認識を持っている若者もいます。こういう状態ではボランティア活動のように、自発性や他者を意識することを根底とする活動にはつながりにくく、自己肯定感を高める機会から、より遠のいてしまうという課題があります。そういった若者にこそ、自分の可能性を高める活動機会が必要であり、その参加のハードルを下げるのが、地域通貨の仕組みです。

最初は対価を得られることを理由に活動をしていても、そこでは自分の取り組みが評価されます。「自分にもできることがある」という実感を積み重ね、自己有用感の向上といった「今」の視点に始まり、「将来」「他者」など広く気付きを得ていくことにつながります。

そして、その受け皿として地域が一役買うことで、若者たちは、「地域に支えてもらった」という実感を持ちながら大人へと成長していきます。

「まちの記憶」を積む経験

京都市山科青少年活動センター　大場 孝弘

人が自分の暮らしたまちに対する特別な思いを持つ元には「まちの記憶」があります。その記憶は、様々な人との関わりで生まれ蓄積されていきます。まちの誰かに怒られたり、ほめられたり、励まされたりした経験の積み重なりが、まちの記憶だと思います。何年かぶりに地域に帰って、ある場所に立つと、当時の自分がよみがえってくることはありませんか。人とつながった場所の記憶が呼び起こされるのでしょう。

いま、地域には自営業者が少なくなり、子どもをお客様として扱うサービス業者が増えています。この非対称的な関係からは、まちの記憶は育みにくいと感じます。「べる」の活動は、意識してそのような地域の大人と子ども・若者との記憶につながる関係をつくり直そうという試みでもあるといえます。

しもせい大学　学びほぐし学部

2016 年度から下京青少年活動センターで開始した「しもせい大学」は、若者が主体的に学び・考え、異年齢間で様々なテーマについて安心して話せる場です。他者との関わりの中で、自分なりの考えを模索していくきっかけづくりを行っています。これまでに、「てつがくカフェ」、「『ハッシュ！』上映会＆トーク」、「おカネにまつわるおはなし」、「ミになるごはん」等様々なテーマで開催してきました。2017 年 4 月～ 6 月はコミュニケーションをテーマに開催します。是非、ご参加ください。

4月16日(日)14:30～17:00「自分と相手を大切にするコミュニケーション」
5月20日(土)13:30～16:00「Let's enjoy！飲みニケーション」
6月10日(土)13:30～16:00「おしゃべりてつがく」

高校生対象「寄付の教室」を実施しました！

寄付やボランティアなどの社会貢献について、楽しさと難しさを体感しながら学ぶ。そんな「寄付の教室」が 2 月 25 日（土）に開催されました。寄付とは？　NPO とは？　といったレクチャーから始まり、いろいろな社会課題に対して取り組んでいる 3 つの団体の紹介がありました。その中から自分ならどこにどれだけ寄付をするかを話し合いました。決して正解があるわけではない問いですが、参加した高校生たちは自分の価値観や考え方にそって意見を交わしていました。

この寄付の教室を経て、参加者の高校生が 3 月 12 日（日）に公益財団法人京都地域創造基金が行う助成金審査会に審査員として出席しました。

ご寄付いただきました

京都市ユースサービス協会では多くのご支援・ご寄付をいただいております。2016 年度中にいただきましたご寄付について、ご紹介させていただきます。

合計 596,204 円（2016 年 4 月～ 2017 年 3 月）

いただいたご寄付については、当協会の取り組み、ご指定いただきました事業に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

公益財団法人京都市ユースサービス協会 ご支援のお願い

この度、平成 29 年度から新たに京都市ユースサービス協会賛助会員（愛称：ゆうサポ会員）制度を創設します。みなさまの継続的なご支援により、子どもから大人へと時間をかけて成長していく若者を、安定して支える基盤をつくることが目的です。

ぜひ私たちといっしょに京都の若者を支えていきましょう！

発　行　公益財団法人　京都市ユースサービス協会
〒 604-8147　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262　京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681　fax：075-231-1231　E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org
印　刷：株式会社谷印刷所　デザイン：自然堂株式会社

ユースかわら版

ワカモノ文化市（ぶんかいち）

東山青少年活動センターでは、3 月 18 日（土）に『ワカモノ文化市』を実施しました。今年初の試みで、手作り市やステンドグラス・木工の体験、若手絵描きとの創作体験やダンス公演など、市民を対象に活動センターを利用する青少年の発表・発信を 1 日に凝縮して行いました。

カフェスペースでは、日ごろ居場所事業やものづくり事業に参加している青少年がボランティアとして、コーヒーを提供しました。事前にフェアトレードコーヒーを広めているお店「春風珈琲」さんから研修を受け、コーヒーの知識やおいしい淹れ方を練習しました。「初めての経験ですべて新鮮、楽しかった」「ドキドキしたけどいい経験ができた」などの感想をもらいました。

ちょこれぇと週間

南青少年活動センターでは、2 月 9 日～ 14 日の 6 日間、バレンタイン特別企画「ちょこれぇと週間」を開催しました。

期間中、料理室を無料開放した「チョコレートタイム」では、中学生から大学生までたくさんの利用があり、それぞれがチョコレートを作るだけでなく、利用者同士が交流するきっかけにもなりました。また、お菓子作り教室「ちょこっティエ」では、京都橘大学の和洋菓子研究会のメンバーを講師に招き、参加者と青少年講師が一緒にお菓子を作りました。そして、ちょこれぇと週間連動企画の未来支援委員会助成金事業「レンアイカフェ」では、恋愛マスターのあかたちかこさんと若者がリアルな「レンアイ」について語り合う機会となりました。

「活動報告・団体交流会」を開催しました

日ごろ、青少年活動センターを使っていただいている利用グループが集まり、活動報告と団体同士の交流を図る会を 2 月 18 日（土）に開催しました。

前半はお互いを知るワークを行い、後半はそれぞれの活動目標をもとに課題や解決について意見交換を行いました。25 団体 34 名の参加があり、熱気あふれる時間となりました。